

事業名 神戸港震災メモリアルパークの整備

被災した波止場の一部を原状で保存し、大震災の教訓と港の重要性、さらに大勢が港の復旧、復興に邁進した様子を後世に伝える事業

受賞機関 運輸省第三港湾建設局神戸港湾工事事務所
神戸市

事業実施期間 平成9年2月10日～平成9年7月15日

事業費 620百万円

技術等の特徴と評価

被災した波止場の一部をそのまま保存し、大震災の教訓と港の重要性、大勢が港の復旧、復興に邁進した様子を後世に伝える事業であり、被災の一部を見学できる海上回廊を設けている。

事業の概要と効果

先の阪神・淡路大震災により、東西20kmにわたる神戸港において、約116kmに及ぶ水際線の大部分が被害を受け、一部は壊滅した。港湾施設については、大型岸壁239バース及び23km以上にのぼる物揚場の大部分が被災し、背後に立地する上屋、野積場、荷役機械等も多くが使用不能になった。特に、外貨貨物の約7割を取り扱っていた21のコンテナターミナルが大きな被害を受け、全て使用不能となった。また、臨港交通施設も被災し、一部を除き通行不能となった。

神戸港震災メモリアルパークは、このような神戸港の



震災の教訓を後世に伝える神戸港震災メモリアルパーク



メモリアルパークを訪ずれる人々（海上回廊）

被害の状況を目に見える形で残すとともに、被災状況や復興の過程を中心に、大震災の教訓と港の重要性、さらに大勢が一丸となって港の復旧、復興に努めた様子を後世に伝えるという目的で、整備した。

効果として、本施設は、メリケン波止場の一部を被災したそのままの状態で保存し、被災した岸壁を見学するための海上回廊を設けて、市民に港湾の被災状況の生々しさを直視してもらうとともに、震災による被害の大きさを再認識し、震災の教訓を風化させることなく後世に伝えることができる。

また、背後のスペースを利用し、神戸港の震災が与えた影響の大きさ、震災時に港が果たした役割及び復興の過程を映像や写真で紹介している。

受賞賛助会員 西松建設㈱関西支店



海上回廊から見た「被災部保存ゾーン」